南米移住地写真集

1969. 3

海外移住事業団

JICA
L-T00
254
1M
LIBRARY

国際協力事業団
受入月日 '84. 8. 20 | L700
23.4
登録No. 13072 | EM

イグアス移住地

畜産センターでの放牧風景

畜産移住地を指向するイグアス移住地では,すでに牧場を造成している農家は約60戸を数え,導入されている牛も約700頭になりました。

1戸で250頭飼っている農家もあり，移住地として牧場の造成や牛の導入気運が極めて盛んで，ますます畜産が活発になっいくでしょう。

牧野の造成は，山を伐り開いてから,トウモロコシや大豆を作った跡作に5～9月に牧草を植えます。牧草の栽植密度と種類によって異りますが最も普及しているグラマ・グラス（パスト・ヘスイータともいう。一霜に強く冬枯れし難く,また,牛の踏圧に強い牧草）では，1年もすれば完全に地表をおゝい,牛の放牧が出来るようになります。牧草には，この他，バアーミュダ・グラス，パンゴラ・グラス,エレファント・グラス,コロニアル・グラス，アルファルファ，ラジノクローバ等が導入されています。

牛の品種は在来種が最も多く，ゼブー，サンタ・ゲルトルディス，ヘレホード等の血を受けた牛も飼われています。

当事業団では，農場（畜産センター）が中心になって畜産の振興および指導に当っています。

JICA LIBRARY
1053449[3]

目　　　次

ブ ラ ジ ル……2

第2トメアスー移住地……3

グァタパラ移住地……6

バルゼア・アレグレ，ジャカレーおよびピニャール移住地……9

南伯雇用農……12

ラーモス移住地……14

パラグァイ……16

イグアス移住地および南部パラグァイ邦人移住地（フラム，チャベス，アルト・パラナ）……17

イグアス移住地……20

南部パラグァイ邦人移住地（フラム，チャベス，アルト・パラナ）……22

アマンバイ移住地……23

アルゼンチン……24

アンデス移住地……25

ガルアペー移住地……27

花卉青年移住……29

ボ リ ビ ア……30

サンファンおよびオキナワ移住地……31

ブラジル国

〈概　観〉

南米大陸の東部に位置し，南米大陸の約半分(47%)，日本の約23倍の面積を持つ南米最大の国である。世界第一のアマゾン河は西から東に流れ，その全長は6,240㎞である。

この国は，1500年ポルトガル人ペドロ・アルバレス・カブラルがインドに向う途中発見し，その植民地となった。

国名のブラジルは，Pau Brasil（ブラジルの木）が染料色素を採る木として当時ヨーロッパで珍重されたことによる。19世紀の初めポルトガルは，フランス，スペインの攻撃をうけ王族はあげてブラジルに逃亡し，1858年ポルトガルの摂政ドン・ジョアンは，ブラジルの国王となったが，1821年に再び本国へ復帰した。しかし王子ドン・ペードロは留まり，1822年サウパウロのイピランガの丘で「独立か死か」と史上劇的な叫びをあげて独立を宣言，初代皇帝となった。しかし，パラグァイ戦争による疲弊と奴隷開放に基因し革命が起こり，1889年共和国が成立今日に至っている。ブラジルは，国土開発と工業化を進め1960年４月には，ブラジリアに首都を移し南米第一の大国として着々発展しつつある。

〈産　業〉

耕地面積は，全国土の僅か４%が開拓されているに過ぎない。
輸出総額の80%は農産物が占め，コーヒーは全世界の70%を産しているが，生産過剰気味である。

牧畜も盛んで，1960年現在，牛約7,400万頭，豚約5,000万頭である。鉱業は，鉄，マンガン，ダイヤ，水晶，クローム，石油等の資源に恵まれているが，開発は遅れている。

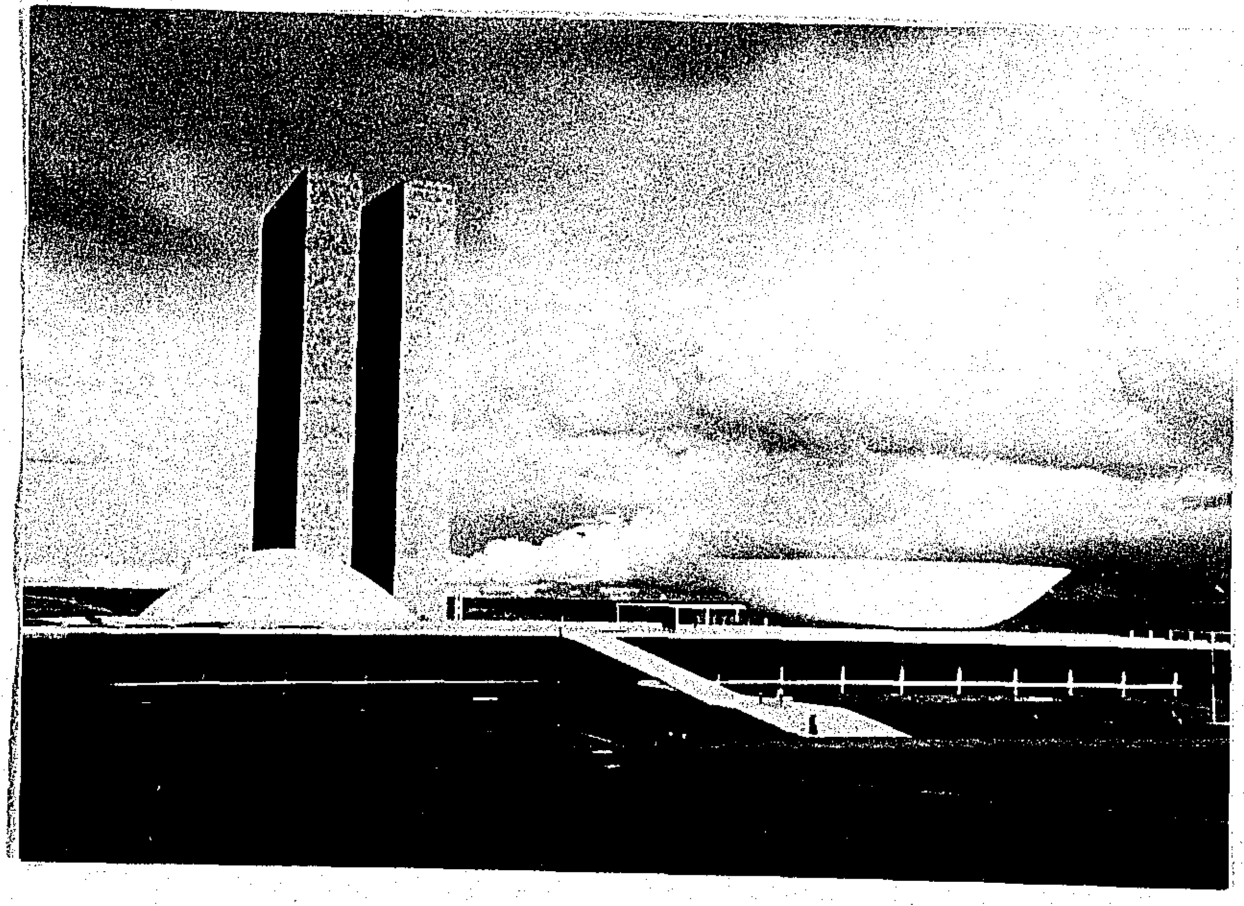
埋蔵量350億トン（含有量50%以上）といわれている豊富な鉄鉱石はようやく開発されつつあり，石油工業は1953年10月国営化された。

工業は，戦後急速に近代化され，紡績業を中心に製紙，重電機，自動車工業の発達に著しいものがある。

〈日本との関係〉

ブラジルと日本との関係は，古く1895年(明治28年)の日伯通商航海条約締結に始まり，1908年(明治41年)４月，日本の移住者781名が初めて笠戸丸でブラジルに渡った。以来60余年の歴史を持ち，現在約60万人の日系人が活躍している。

その75%は農業者で，アマゾンにおけるジュート及びピメンタの栽培あるいはコチア産業組合（組合員10,000名）の活動などをみても明らかのようにブラジル農業に偉大な貢献をしている。又，ブラジル政府の工業化推進に伴ない日本の企業進出も活発で，日本ウジミナス，東洋紡，豊和工業，石川島幡磨造船等20数社に上っている。このほか，政治家や学者をはじめ文化方面にも日系人の活躍はめざましい。1963年(昭和38年)10月には日伯移住協定が発効し今後ますます日伯両国の関係が緊密化されることであろう。



首都ブラジリアにある国会議事堂

第２トメアスー移住地

□　移住地の概況

○位置　　　　西経48度50分，南緯２度31分

○標高　　　　11ｍ～30ｍ（平均標高15ｍ）

○面積　　　　25,800ha　　１ロッテ25ha

○入植状況　　事業団直営移住地、90戸

○分譲条件及び価格　①一括払　230,000円

②分割払　292,100円（頭金23,000円、４年据置３ヶ年均等年賦払い）

○環境　　地形ーパラー州州都ベレン市（人口50万人）より南東水路240km。ほぼ平担な地形。移住地内をアカラ川の支流クシュー川、イピランガ川が横断している。

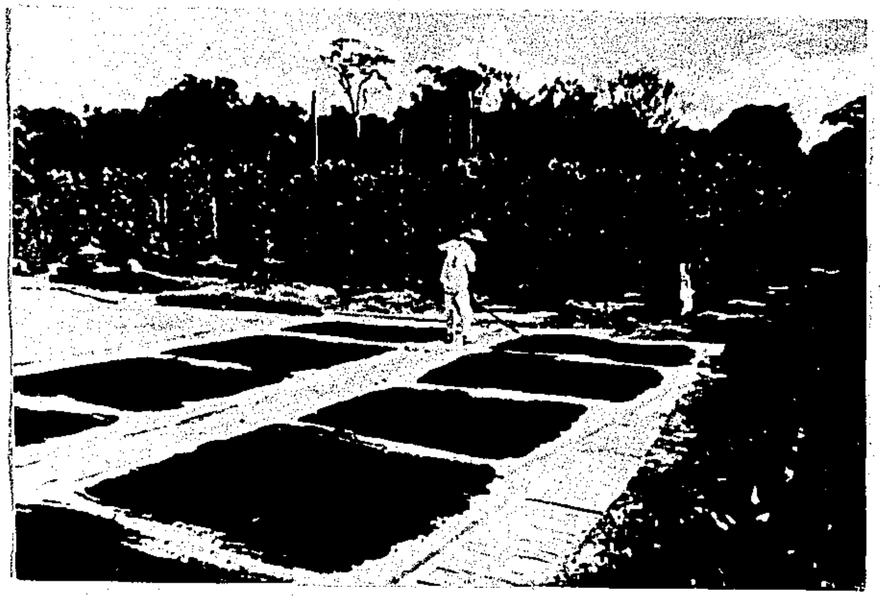
土壌ー地質は第３紀層砂岩または粘板岩により構成され、ラテライト系の瘠薄土壌。原始林伐開２～３年間の表土は比較的有機質に富む（ＰＨ4､0～5､0）

植生ー密生した熱帯原始林帯で直径1､5ｍ以上，樹高30～40ｍの巨木が散在。

気候ー熱帯性高温多湿気候，年平均28､3度，年間降雨量2,670㎜。乾期は６～11月，雨期は12～５月。夜間は温度が下るのでしのぎやすい。

○営農の概要　従来の営農形態はピメンタ（胡椒）を主とした単一営農であったが，最近，家畜等を導入して経営の多角化をはかっている。

○その他　ピメンタ園の造園分譲地５戸分を公募中で，これは、ピメンタ園の外，牧草地，短期作物地，自然林等があり，住宅つきで分譲価格は140万円である。事業団事業所がある。組合はトメアスー産業組合に加入している。



トメアスー移住地の営農はピメンタ（胡椒）で代表されます。8～10月に、ブドウ状になった実を摘果、脱粒し湯蒸し後２～３日天日乾燥します。これを唐箕選で選別して調整します。普通ha当り乾実で２年木500㎏，３年木2,000㎏，４年木4,000kg生産されます。

トメアスー港
ベレン～トメアスー間（240㎞）の河川運輸は，ほとんど毎日便船があり
トメアスー移住地の物資の流通は河川運輸が主体となっています。

トメアスー産業組合事務所
組合員約400名でトメアスー地区経済の中枢的役割をはたしています。

ピメンタの支柱運搬

ピメンタの結束
成長点が重ならないように支柱に結束し，根もとは，乾燥しないように日覆いをし，敷草用にガテマラ等を植えます。

第２トメアスー移住地

陸稲の栽培状況
短期作として陸稲の他，トウモロコシ，マンジョカがあります。

クマル（トンコ豆）の木
トメアスー移住地の将来の営農作物の一つとして期待されている香辛料作物です。この他永年作物としてみかん類，マンゴ，熱帯果樹類が自給用に栽培されています。

白ネロール
褐色，ヘッデイ・シンギー
北伯農試で飼われている牛の種類。
ピメンタの単作経営より脱皮するため有畜農業も検討が進められています。

グゼラ

水牛，バッファロ

グァタパラ移住地

□　移住地の概況

○位置　　西経47度48分，南緯21度33分

○標高　　496ｍ～570ｍ（平均520ｍ）

○面積　　7,294ｈａ　１ロッテ12.5ｈａ

○入植状況　　事業団直営移住地　125戸

○分譲条件及び価格　①一括払　1,500,000円

②分割払　頭金10％10年据置４年分割払

○環境　地形－地区中央西寄りから以東の大波状丘地と西南部の低湿地とに区分される。

土壌－丘地は場所により埴土から砂壌土の差がある（ＰＨ４～4.5）。低地は黒色の沖積土が多い（ＰＨ３～５）

植生－丘地再生雑木林又は耕地跡か跡地の放牧地。低地は原始林が残っており他は禾本科の雑草。湿地帯は葦に似た草が密生している。

気候－雨期　10～３月、乾期４～９月。夏の最高平均気温31.6°Ｃ。冬の最低平均気温12.8°Ｃ。年間降雨量約1,000㎜

近傍都市－サンパウロ市（600万人）　290km

リベロンプレット市（20万人）　50km

○営農の概要　42年に水利組合が発足し本格的低地利用の農業が開始され、最近は米作の外に蔬菜,養鶏,養蚕等の多角経営により営農は安定しつつある。

○その他　事業団事業所がある。組合はコチア産業組合に加入している。

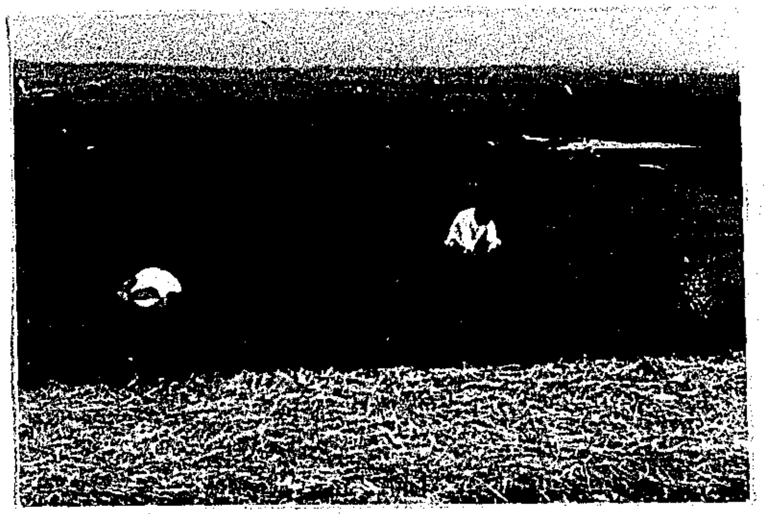
グァタパラの丘地と住宅群を望む

１ロッテの土地利用は、低地（灌排水地区）３ha，と丘地（無灌概地区）9.5ha，（宅地1.5ha，を含む）となっています。

グァタパラ移住地

5号支線水路
低地（灌排水地区）には，このような水路が縦横に造成されています。
移住地西南部のモジ・グアスー河から用水を取り入れ，排水はまたこの河に流します。

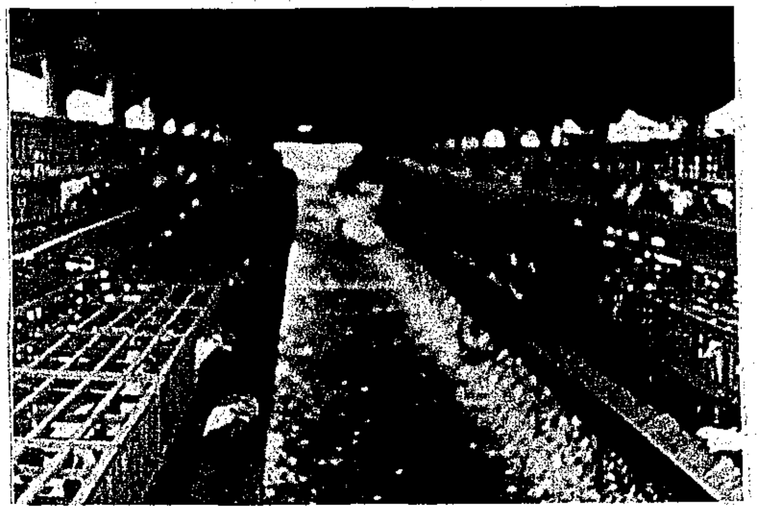
グァタパラ精米所（コチア産組グァタパラ出荷組合経営）



低地水田
1 ha 当り籾で4,800㎏収穫されます。主要品種は台中65号です。

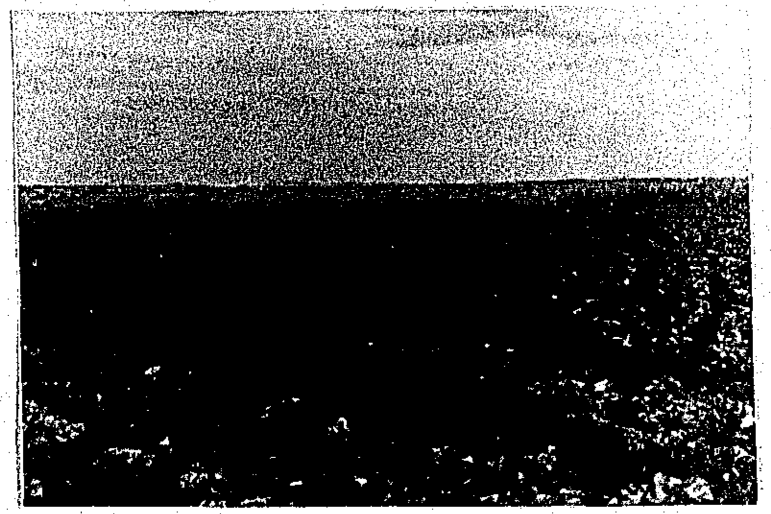
グァタパラ移住地

飼料配合工場内部（コチア産組グァタパラ倉庫ー出張所経営）
こゝで飼料を配合し，各農家に配布しています。



入植者の養鶏場
採卵および肉養鶏が盛んでこの他養豚経営も盛んです。コチア産組を通じて サンパウロ市場等に販売されています。

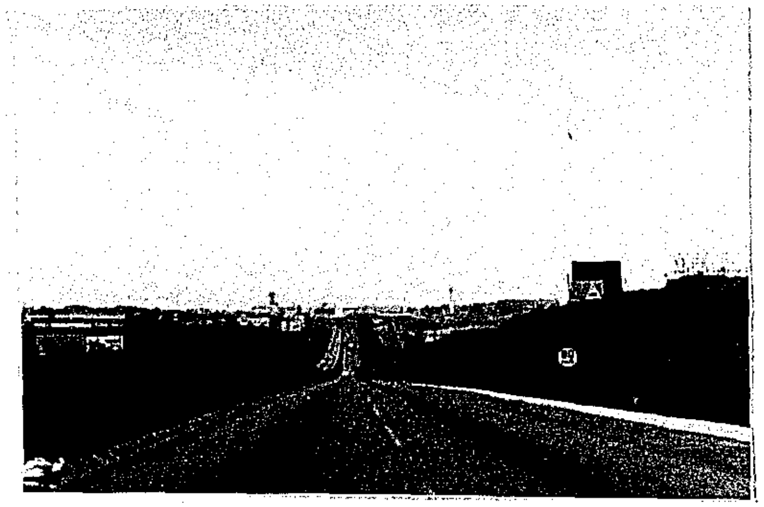
桑 園
グァタパラは養蚕でも有名です。42年度の実績では，27戸で収繭量は18,701kgとなっています。繭生産量は1年生桑，200kg，2年生240kg，3年生360kg，4年生以降420kgといわれています。この他永年性のものとしてパイナップル，柑橘，バナナ等も栽培されています。



低地利用のイチゴ栽培
タマネギ，トマト，馬鈴薯，スイカ，ピーマン等の蔬菜栽培も盛んで都市近郊的多角経営が見受けられます。

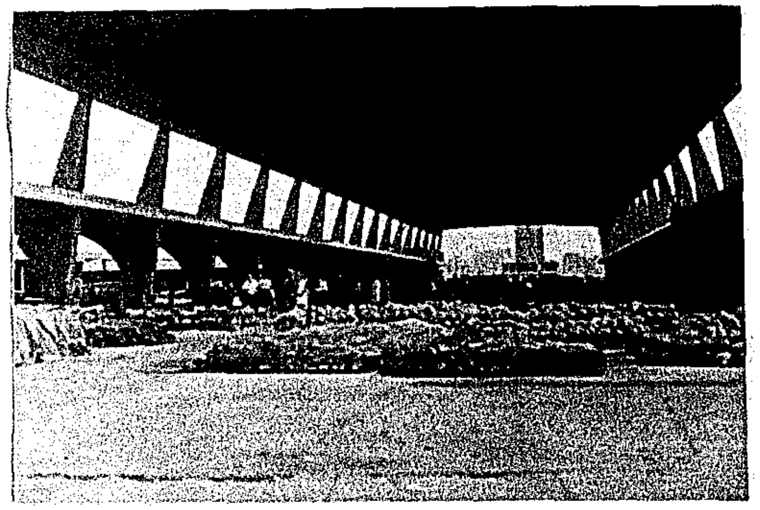
項目 ＼ 移住地名		バルゼア・アレグレ移住地	ジャカレー移住地	ピニャール移住地
位置		西経55度0分、南緯20度26分	西経46度02分、南緯23度18分	西経47度52分、南緯23度48分
標高		70m～400m、平均250m	570m～760m、平均575m	655m～735m、平均695m
面積		36,363ha(1ロッテ25ha)	613ha(1ロッテ6.2ha)	756ha(1ロッテ12ha)
入植状況		34戸	33戸	49戸
分譲条件及び価格		①一括払　650,000円 ②分割払　頭金10%、9年据置、5年分割払	①一括払　864,000円 ②分割払　頭金10%、10年据置、3年分割払	①一括払　650,000円 ②分割払　頭金10%、10年据置、3年分割払
環境	地形	大きな馬の背状で東西に稜線が貫通し、南北の境界は川で東より西へ流れている。地区内はゆるい起伏を持ちながら、それらの川へ向って低くなっている。	移住地のまわりは丘陵で囲まれ、中央部に低地がある。低地は比較的平坦で、北側にパラテイ川が貫流している。	ゆるい波状形で、丘陵部にはやや平地がある。他の部分は傾斜5°～7°、谷間に小川がある。
	地質・土壌	主として砂質土又は砂壌土で、黒土および赤土地帯が斑点状に散在している。PH5～6。	丘陵地は花崗岩系の砂壌土が主で、低地部は沖積性の埴壌土である。	埴壌土が主体でテーラロシヤ系土壌が部分的にある。丘部は砂まじりで腐植に富むが、30～40mの下層には粘土層がある。
	植生	カンポセラード地帯で喬木、灌木が密生しているが有用材に乏しく、草生地帯も極めて少ない。	丘陵地は主として草原、再生林で、低地はパラテイ川沿いに若干の原始林があり、他は草地である。	自然林地は原始パラナ松林であった。雑木を薪炭用に採取し、二次成林の外観を示している。
	気候	年間平均気温23.6度。年間雨量1,538mm。	年間平均気温18.0度。年間雨量1,128mm。	年2～3回薄霜がある。年間平均気温は18.5度。 年間雨量1,250mm。
	近傍都市	カンポグランデ市(10万人) 60km。	ジャカレー市(6万人)5km、サンパウロ市(600万人)67km。	サンパウロ市(600万人) 160km。
営農の概要		養鶏主体で蔬菜、マンジョカ、トウモロコシ等も組み入れている。	近くに大消費都市サンパウロ市をひかえて集約度の高い近郊蔬菜農業を行っている。	ジャカレーに同じ。
その他		事業団事業所およびバルゼア・アレグレ産組がある。	コチア産組に加入。	南伯産組に加入。

バルゼア・アレグレ，ジャカレー及びピニャール移住地



サンパウロ～サントス街道
サンパウロ州内の道路は相当整備されており，主要都市間は，このような道路で結ばれ，サンパウロ市を中心として物資の流通は極めて活発です。

サンパウロ市場（南米第一の規模をほこる）
サンパウロ市の台所をまかなうこの市場では各種の農畜産物が集荷，販売されています。
日系人生産の農産物は極めて大きな比重を占めています。



ジャカレー移住地の蔬菜栽培
特にジャカレー及びピニャール移住地では大消費都市サンパウロをひかえて集約的な蔬菜（トマトや葉菜類，根菜類等）栽培が盛んです。

バルゼア・アレグレ，ジャカレー及びピニャール移住地

養鶏場

バルゼァ・アレグレでは蔬菜に養鶏を組み入れて営農は安定して来ていますが，畜産(牛)を導入して経営の安定をより一層推進しようとしています。

ジャカレー移住地では蔬菜中心営農に果樹としてバナナ，レモンをとり入れ養鶏，雑作をも組み入れる多角経営が進められ，営農の安定確立が図られています。

イタリヤ・ブドウの栽培

市場で注目を受け需要も急速に伸びて来ている果樹の一つにイタリヤ・ブドウ（生食用）があります。

ピニャール移住地では蔬菜営農より脱皮するために，果樹(イタリヤ・ブドウとリンゴ)をとり入れ，養鶏も組み合せて経営の安定化が進められています。

南伯雇用農

戦前の移住最盛期に渡航した人達は、現在すでに50才以上の老年層を形成し、中堅層はいずれも幼少時に渡航した人達で、いわば、現地生れの二世的な層で占められている。このような社会構成のなかに戦後5万余名の新来移住者が加わった事は日系コロニアの新陳代謝、機能更新にとり、また、思想、技術、知識の新しい担い手として大きな意義をもっている。

○ 資格条件

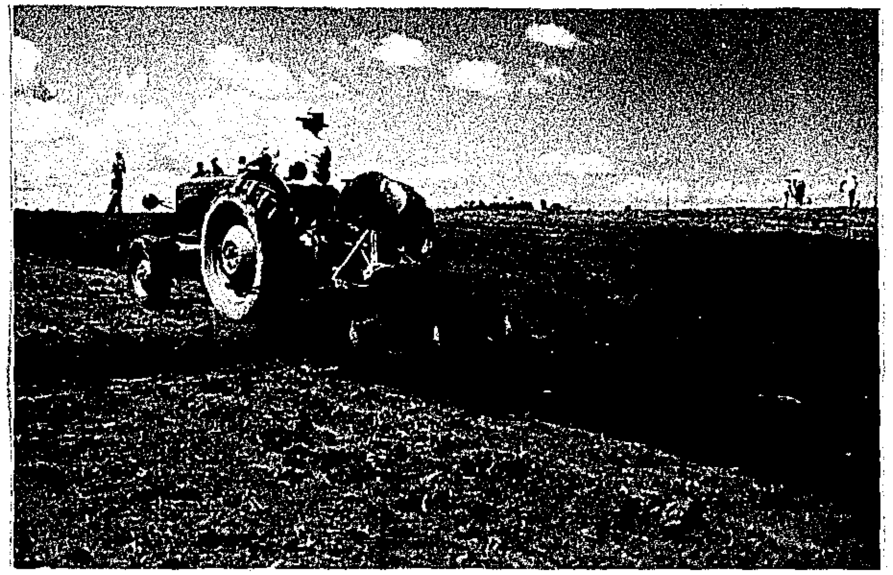
年令 単身 18才～25才位
若夫婦 夫が30才位まで
家族 家長が50才位まで、稼動力3人以上が望ましい。

○ 雇用条件

入植先 南伯地方、主としてサンパウロ州、パラナ州
契約 2～4年

○ 独立例

分益農 雇用期間を終了し、パトロン（雇用主）の援助を得て、果樹、蔬菜、馬鈴薯等を40～80%の割合で分益する。
借地農 分益農を何年かやり所要の独立資金の見通しができると、独立の第1歩である借地農へすすむ。



戦前に移住し、成功した人達と比較して何等遜色のない経営を行なっている南伯雇用移住青年が既に出て来ました。これは、本人の逞しい開拓精神、たゆざる努力、経営手腕に負う所が多く、また、チャンスに恵まれたことも立派な成果を残し得た大きな要因になっています。

南伯雇用農

独立1年目のカーネーション栽培

今までの努力が報いられ，独立することが出来ました。「さあ,これからは自分の経営によって豊かな実りを得ることが出来るのだ。」青年の夢がこの可憐な花に託されています。

独立1年目のイチゴ栽培

独立2年目の蔬菜栽培

■ 移住地の概況

位　　置	西経50度45分南緯27度15分	地　　形	小波状起伏を呈す高原地地形で丘陵の傾斜度概ね５～７度，部分的に15度を示す所もある。
面　　積	980ha（１ロッテ平均25ha）	地質土壌	玄武岩系熔岩の自然風化土壌。大部分壌土で部分的に埴壌土，砂壌土の所がある。
標　　高	900～1,000ｍ（平均950ｍ）	植　　生	自然林は大部分がパラナ松の自生林，パラナ松の他にガウナ，ブクレ，カネエラ……等が生えている。
入植地管理者	サンタ・カタリーナ州		部分的に再生林となり，ホウキ草や竹が自生している。
入植開始年	昭和39年	気　　候	年平均気温15.7°C,年間降雨量約1,350㎜(小麦植民地のデータによる)夏は30℃を越し，冬は降霜がある。
入植戸数	18戸　　116人	近傍主要都市	陸路23㎞クリチバーノス市（人口10,000人),陸路100㎞ラージェス市人口80,000人

（分譲条件及び価格）分割払1,997新クルゼイロ，３年据置10年分割払（住宅資材を含む）

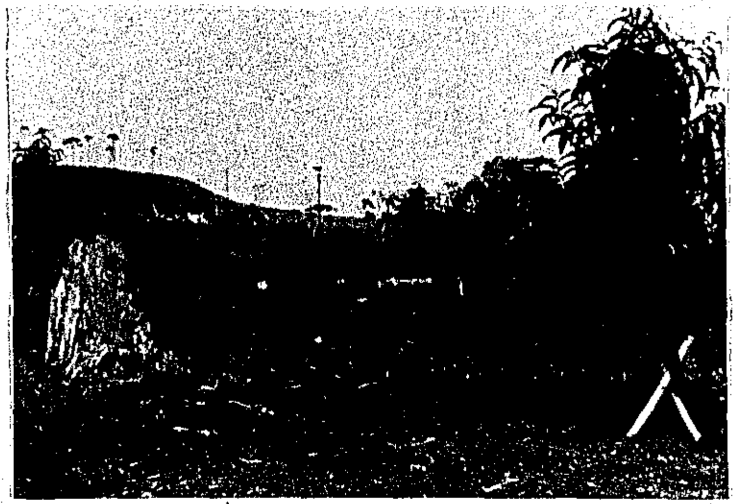
（営農の概況）温帯果樹ネクタリン（油桃），ブドウ，りんごを営農の主体とし，これに養豚を並行した営農が進められている。この経営がうまく回転するよう飼料としてマンジョカ，大豆，トウモロコシを自給し，つなぎとして，トマト，馬鈴薯，玉ねぎ，フェジョン等の短期作物を栽培する営農方式がとられている。

近傍都市クリチバーノス市は人口１万人，この地方の中心地で郡役所があります。
教育機関ー小学校３，中学校２，師範学校２，商業学校１
医療機関ー綜合病院，医院，薬局，保健所
その他，映画館，銀行，製材所，商店……等があります。

ラーモス移住地の全景
入植農家は200～300ｍ位はなれて点在し，移住地村が形式されています。

ラーモス移住地

小学校校庭で入植者はスクェヤーダンスを楽しみます。婦人会青年会等は毎月1回位集まって料理講習会やピクニック等を催しています。



2年生ネクタリンとタマネギ

ネクタリン(油桃)は入植2年目より栽培をはじめ1戸平均おゝよそ300本が植付られています。
植付は6～7月に行い，収穫は1～2月に行います。植付3年目より収穫があり，1ha当り平均，3年生300箱，4年生2,500箱，5年生4,500箱，6年生6,000箱，7年生8,000箱，8年生以降8,500箱が見込まれます。
今年(昭和44年)から，本格的な収穫に入り1月にサンパウロ市場に出荷したところ，1箱（8ダース入り）が約4,000円で取引きされました。

定植後1年目のネクタリン

傾斜地を利用して豚を放牧
品種は，ランドレースとデュロック・ジャージが多く飼われ，ランドレースは6ヶ月で90kgになります。

入植初期の農家と小麦栽培
6月に播種，11～12月に収穫，1ha当り1,800kg位の収穫があります。

パラグアイ国

〈概　観〉

南米大陸の中部にある内陸国である。この国は，1535年スペインの植民地となったが，1811年独立し，1844年共和国となった。

1864年には，ブラジル，アルゼンチン，ウルグァイの３国を相手に５年にわたって戦い悲惨な敗戦を契し，国土及び人的資源を失なった。更に1870年以来ボリビアとの国境紛争が絶えず，1932年のチャコ戦争は３年に及び，国力はますます衰えたが，近年平和的な農牧国として再建に努力し，低開発国援助と相俟ち漸次発展しつつある。

〈産　業〉

農牧国で，国民の75%が農事に従事しているが，耕地面積は国土の１%に過ぎない。農産物は，タバコ，棉花，とうもろこし，小麦，桐油，マテ茶等である。家畜数は，牛は約450万頭で人間１人に対し2.5頭の割であり，林業は多種の有用材を産出し，主な輸出品は木材，タンニン，皮革，牛肉，油脂類等で，主な輸入品は繊維，機械類である。

〈日本との関係〉

この国への日本人移住は，1936年（昭和11年）より，首都アスンシオン市の南方132kmの地点にあるラ・コルメナ移住地に数回に分れて130家族が入植し，安定した営農をすすめている。

戦後，1954年（昭和29年）チャベス地区の入植120家族に始まり，次いで，フラム移住地へ600家族が入植した。

広島県沼隈町，高知県大正町の町ぐるみ移住も，このフラム移住地である。1960年（昭和35年）アルト・パラナ地区に84,000ヘクタールを造成し送出しているが，更に1963年（昭和38年）にはイグアス地区に87,000ヘクタールを造成し，受入れをすすめている。

このほか，アメリカ人経営のカフェー耕地に入った137家族のコーヒー園契約移住者も既に自営農として独立している。

1959年（昭和34年）７月には，日パ移住協定が締結され，30年間に85,000人の日本人受入れが認められた。一方，わが国側からも船舶借款が提供され両国間の友好関係はますます強化されつつある。

首都アスンシオンの中心街にそびえるガラニー・ホテル

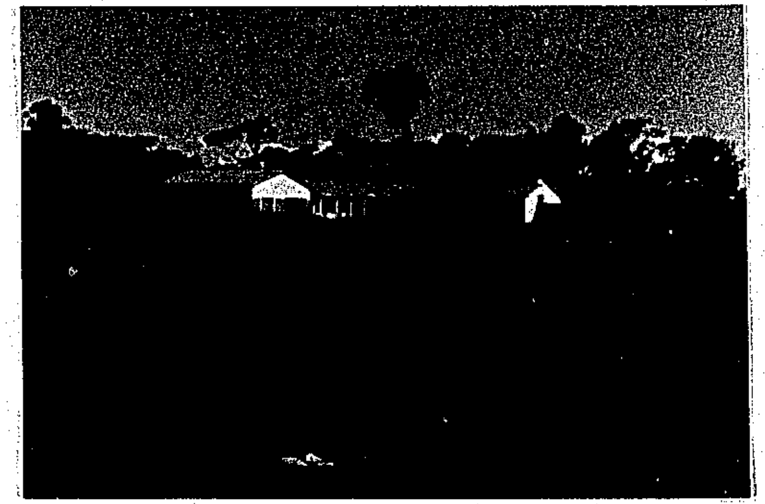
■移住地の概要

項目 ＼ 移住地名		イグアス移住地	南部パラグァイ(フラム、アルト・パラナ、チャベス)移住地	アマンバイ移住地
位置		西経55度、南緯25度30分	西経55度40分～55分、南緯27度～27度05分	西経55度39分、南緯22度35分
標高		平均250m	フラム及びチャベス平均190m、アルト・パラナ平均200m	最高標高645m
面積		87,763ha(1ロッテ30ha)	フラム16,057ha(1ロッテ25ha) チャベス68,000ha(1ロッテ20～25ha) アルト・パラナ83,580ha(1ロッテ30ha)	2,600ha(平均1ロッテ20ha)
入植状況		事業団直営移住地，149戸入植	フラム及びアルト・パラナは、事業団直営移住地で609戸入植、チャベスはパ国政府I.B.R管理移住地で邦人68戸入植。	ペドロ・ファン・カバリェーロ市を中心に半径40㎞周辺8地区に分散入植をしている。入植戸数145戸。
分譲条件及び価格		①一括払 400,000円 ②分割払 頭金10%、9年据置5年分割払。	フラム：①一括払 88,250～156,500円 ②分割払 4年据置、4年分割払、頭金10% チャベス：分割払 5年分割払 1ha当り約502円 アルト・パラナ：①一括払 400,000円 ②分割払 9年据置、5年分割払、頭金10%。	各自が個々に購入、各地区にまとまって入植。
環境	地形	テーラロシヤ特有の大波状形の起伏をなし、国際道路沿線が分水嶺となり、北部イグアス河、南部モンダウ河に向って傾斜し、低くなっている。	フラム及びチャベスは波状地形を呈し、低地地帯は約2割位ある。アルト・パラナは起伏に富む大波状を呈し、全体的に南東部に傾斜する。	ブラジルとの東部国境沿いが嶺線部台地を形成、この部分より無数の小河川が西部に流れ、かなり起伏に富む波状又は丘稜地形を呈す。
	地質・土壌	玄武岩の風化した暗赤色ラテライト化土壌により覆われ、玄武岩質の岩石の露頭も散見される。土壌は一般に深く、平坦部で5～6m又はそれ以上、砂土、砂壌土はイグアス河、モンダウ河附近等に分布している。	暗赤色のラテライト化土壌で、構造は良く発達して透水性に富み森林下では腐植含有量も高く、有効燐酸が著しい。低地部土壌は一般に灰褐色及び黒褐色を呈し、腐植含有は低いが水田、牧草地として利用。	テーラロシヤの肥沃地と低地は黒土の壌土、砂土の湿地帯からなっている。 東部及び北部の国境ぞいは砂岩に由来、カンポが多く他は玄武岩に由来し、埴壌土又は砂壌土である。
	植生	一般に森林部の植生状況は良好。イグアス河、モンダウ河周辺を中心として草原が散在する。	一般に森林部の植生状況は良好である。 低地部には叢林又は耐湿性草木が繁茂している。	原生林は比較的少ない。
	気候	亜熱帯圏に属する為、一般に気候もよく雨量も適量であり、農作物の生育状態は極めて良い。 年平均気温22.4℃、年間雨量1,957mm。	夏の平均気温29～30度内外、冬の平均気温14度内外で年間雨量は1,700mm程度。	夏には32～33度を越すこともあり、冬には零下になることもあるが、パラグァイ国で最もコーヒー栽培に適した地といわれている。年間雨量は1,700mm前後。
	近傍都市	アスンシオン市(31万人) 280km。	エンカルナシオン市(4万人) 20～70km。	ペドロ・ファン・カバリェーロ市(2万人)
営農の概要		自給自足体制(水田、雑作、蔬菜、果樹、豚、鶏等)を採り、換金作物として雑作(棉、大豆、トウモロコシ等)、蔬菜、養鶏を採り入れ、現金収入を計りながら、最終的に畜産経営を確立して行く。	自給自足体制を基本とし、永年作物(油桐、マテ茶)と雑作(棉、大豆、トウモロコシ)を二本の柱とした営農を行っている。新しくは養蚕、養蜂、機械化営農がとりあげられている。	国境附近の為、ブラジル経済圏にあり、コーヒーの主作地帯、ペドロ・ファン・カバリェーロ市及びポンタポラン市向けの蔬菜、養鶏も盛んである。
その他		那須構想、東北村集団移住構想が進められている。 事業団事業所、農場、診療所及びイグアス農協がある。	日系人の搾油会社と養蚕企業が進出し、事業団支所、事業所、農場、診療所及びイタプア農協連と5単協がある。	事業団駐在員事務所があり、アマンバイ農協がある。

イグアス移住地及び南部パラグアイ邦人移住地

アスンシオン市で開催された日系人農産物品評会において，日本人農業者の示したすばらしい成果をほめるストロエスネル大統領。

11〜12月になると壮大な山焼き風景を見ることが出来ます。本格的な伐採は10月〜11月に行なわれ，20日〜1ヶ月位乾燥してから山焼きが行なわれます。



事業団経営のイグアス診療所

事業団では，フラム，アルト・パラナ，イグアスの各移住地に診療所を建設し，日本人医師が駐在して移住地の衛生管理に当っています。この他，学校，農協事務所，販売所，倉庫，警察署等を整備し，移住地の治安，教育，経済活動及び生活環境の整備につとめています。

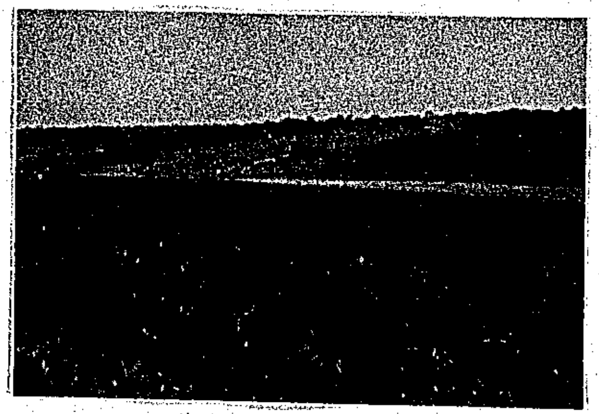
水田の造成

ロッテ内にある低地と小河川を利用して，前年伐り開いた所を，冬から春にかけて畑に造成します。普通，無肥料で3〜5年間は1 ha 当り3,000㎏以上の白米が収穫出来ます。日系人は日本式水田で栽培しています。

南米農業に欠かせない作物マンジョカはパラグァイ農業においても同様で，食用，飼料用またデンプン加工用として栽培され，品種も多岐にわたっています。
草丈は普通２～３ｍで塊根を利用し，植付後１年目で１株約２kg，２年目で３～４kg，３年以上は食用に供することが出来ず，普通１～２年ものを利用します。

牛と豚
移住地で最も多く飼われている豚は，豚脂歩留の高い在来種とかカロンチョで１年で約90～100kgになります。
しかし，移住地では市場性の高い肉豚への移行が図られ，デュロック・ジャージ及びランドレースが多く飼われるようになって来ました。飼料として，マンジョカ，トウモロコシ，アルファルファ，牧草類等極めて豊富です。

大豆は日本人がはじめてパラグアイに導入した新しい農作物で，安定した市場にささえられ，年々栽培面積が増加しています。
南部パラグアイ移住地の代表的な作物でもあり，イグアス移住地でも栽培され，１ha 当り収量は平均1,200kgで，2,000kg以上を生産する農家もあります。



トウモロコシの栽培
年に２回栽培され１期作では，1ha 当り2,500kg以上，２期作では1,000～2,000kg収穫されています。
代表的な品種はベネズエラ種です。

収穫を待つ棉畑
最も多く作られているのが陸地棉のエンピィレという品種で，１ha 当り800～1,000kg収穫出来，３月が棉摘みの最盛期で猫の手もかりたい程忙しくなります。

イグアス移住地

イグアス移住地内を約30kmにわたって貫通する国際道路

パラグアイとブラジルを結ぶ大動脈であり，またパラグアイの経済発展および国土開発にますます重要性を増している道路です。当移住地の発展もこの道路なくしては考えられず特にアスンシオン市場との結びつきが強く，農産物の販売，日常品の購入等全ての流通はこの道路を通じて行なわれます。

パラグアイで奨励されている牛サンタ・ゲルトルデイス

暑さに強く，ダニ熱に対する抵抗力の大きい品種で，体格雄大発育早く，枝肉歩留りおよび肉質ともよい。成牡牛1,000～1,200kg，成牝牛600～800kg。

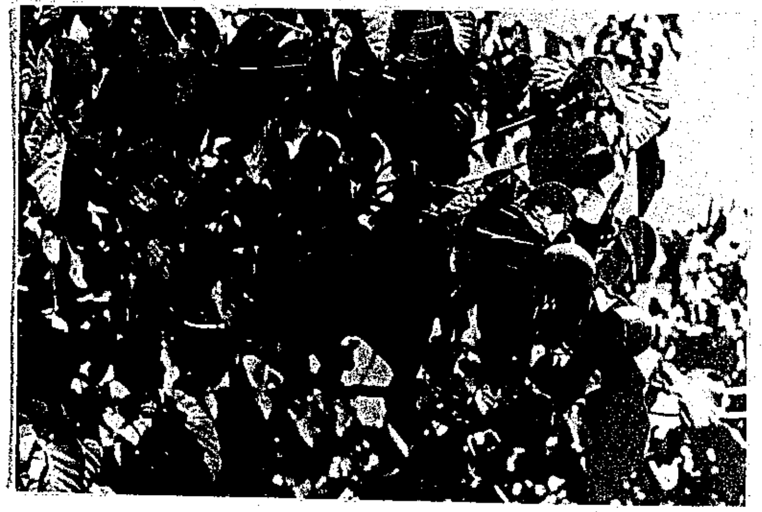
トマトの栽培（1ha当り20,000本栽植40,000kg収穫）

アスンシオン市場向けの蔬菜栽培，養鶏も盛んです。

南部パラグアイ邦人移住地
（フラム，チャベス，アルト・パラナ）

アルト・パラナ移住地を望む。

イタプア県にあるフラム・チャベスおよびアルト・パラナ移住地の代表的永年作物は油桐です。移住地に入ると行けども行けども油桐畑が続き，原始林をここまで開発した日本人の逞しい姿を見ることが出来ます。昭和43年日系の搾油会社が進出し，イタプア県の県庁所在地エンカルナシオン市で建設工事が進められ，明るい話題となってます。



油桐の実

油桐は8～9月に美しい花を咲かせ，あたかも銀をまぶしたような樹海を見ることができます。次の年の2～3月頃このような実をつけ，5月頃より落果して収穫します。
1ha当り成木で4,000㎏とれ，邦人のみで約9,000ha栽培します。この他永年作物として，マテ茶柑橘等しています。

落ち着いた移住地風景

傾斜地を利用して，牛を飼い庭には美しい花を咲かせて移住地も生活に落ち着きを持つようになってきました。

当地区の営農振興対策として新しく養蚕がとりあげられ，すでに企業が進出していますがこの他期待されているものに養蜂があります。

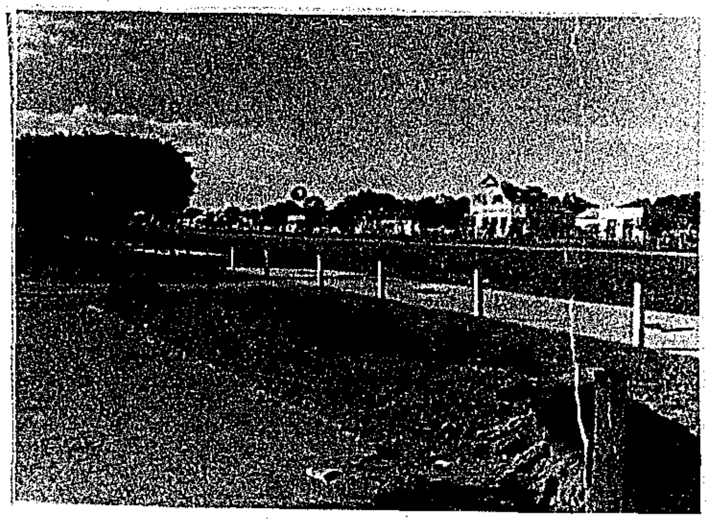
アマンバイ移住地

ブラジル側ポンタポラン市よりペドロ・ファン・カバリェーロ市を望む

写真中央の緑地

に国境線があり，これをはさんで２つの市があります。

野菜類や日常雑貨類も，２つの市にまたがって自由に流通しており，　この地域に145戸が入植しています。



２年生コーヒ樹

（高知県出身寺石さんのコーヒー園）

モンテコーヒー園（山の木ペローバを残し防霜対策をとる）

ペドロ・ファン地域はパラグアイにおける最も大きなコーヒーの生産地で，日本人入植者も「コーヒー農家」と呼ばれる農家が55戸あり，すでに本格的な生産をあげている農家も多数出て来ました。コーヒーは，普通1ha当り４年生で800㎏，7～８年で成木となり4,000～5,000㎏の収穫があるといわれます。またコーヒーは霜に弱いので，降霜のある所では，山の木を残し霜が降りないようにしています。ここで生産されるコーヒーは，ほとんど輸出されています。

丸尾さんの養鶏場

当地域では，コーヒの他，日本人入植者による雑作（トウモロコシ，フェジョン，大豆）栽培，野菜，養鶏が盛んで，なかなかバラィティーに富んだ経営がおこなわれています。

アルゼンチン国

〈概　　観〉

南米大陸南部の大部分を占め，ラ・プラタ河を中心とする平野はアマゾン平野に次いで世界第２の広大な肥沃地帯である。またアンデス山脈の東方は，広大なパンパ（大草原）で牧畜が盛んである。

この国は，1516年スペイン探険隊によって発見され，以来スペインの支配下におかれたが，1810年５月反乱がおこり，1816年７月９日独立し共和国となった。

〈産　　業〉

主要産業は，牧畜と農業で，牧畜は1950年以来国家管理下におかれている。1960年現在，牛約4,300万頭(世界第５位)，羊約4,800万頭（世界第３位），豚約400万頭で，ブェノス・アイレス市には世界最大の肉冷凍工場がある。農産物の主なものは小麦，とうもろこし，棉花，果樹等で，小麦の生産高は，世界第７位で南米全体の６割をこえている。

工業は，電力，石油の開発がおくれているため低調であったが近年漸次振興しつつある。

輸出総額の90%は農畜産物で，輸入品の主なものは機械類，自動車，鉄鋼，石炭等である。

〈日本との関係〉

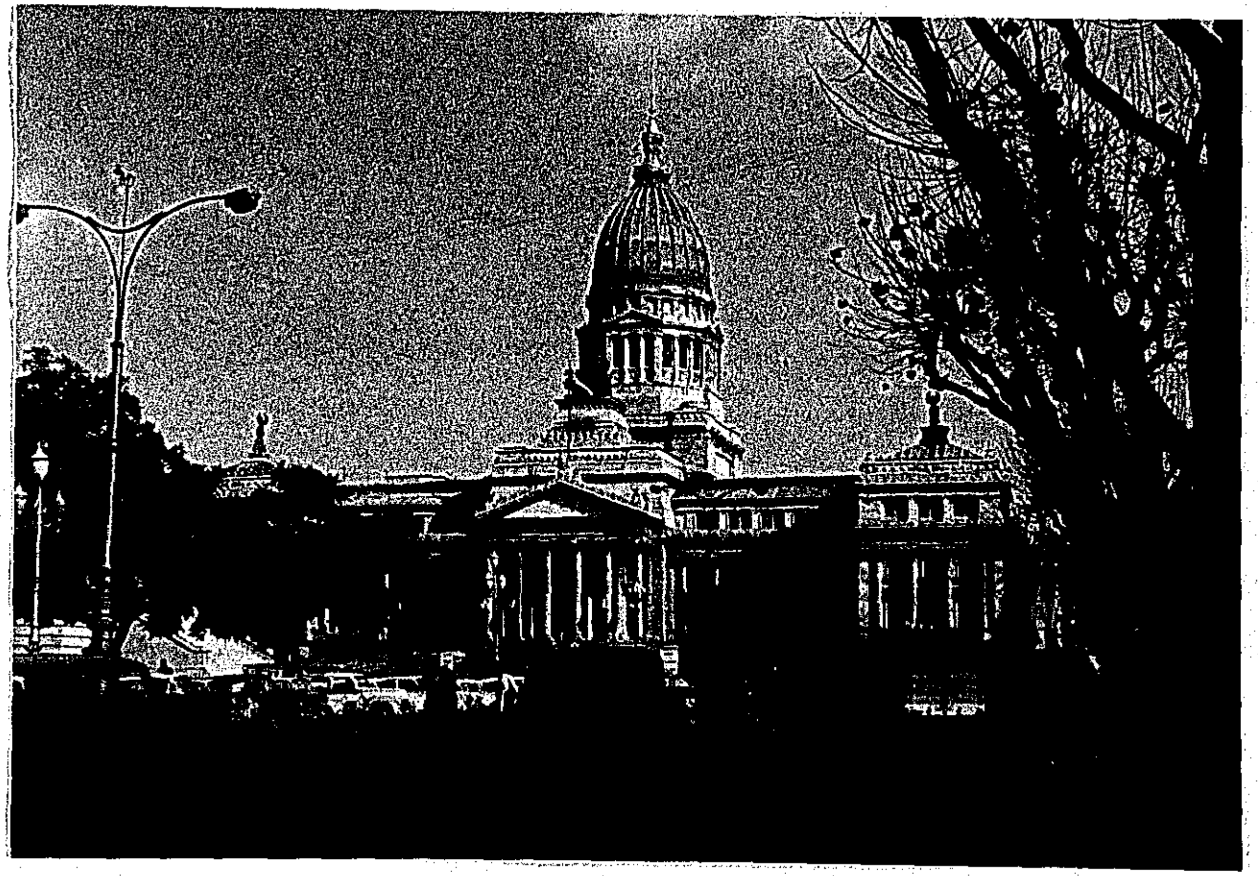
1898年（明治31年）日ア修交通商条約が締結され，日本人移住者が渡航したのは日露戦争直後である。

特記すべきことは，日露戦争のとき日本海海戦で活躍した日進，春日の両艦はアルゼンチン海軍から譲りうけたもので，当時アルゼンチン官民あげて親日的であったことを物語るものである。

現在約20,000人の日系人がおり，半数以上が農業で，その他は都市又はその近郊で主として花作り，クリーニング業等に従事すると共に政財界にも多くの成功者を出している。

戦後の日本人の移住は，1957年（昭和32年）１月に400家族の受入れが認められ，日本はミシオネス州ガルアペー地区（3,000ヘクタール）を購入し，すでに約80戸入植し，更にメンドサ州アンデス地区（1,312ヘクタール）に受入れをすすめており，現在26戸が入植している。

昭和36年度より工業技術移住の途も開かれた。また1961年末，日ア移住協定が締結され，将来への希望は極めて明るい。



首都ブエノス・アイレスにある国会議事堂

アンデス移住地

■ 移住地の概況

- 位置　西径67度50分，南緯34度50分
- 標高及び面積　平均 600m　1,312ha　（1ロッテ10ha ）
- 入植状況　事業団直営移住地　26戸入植している。
- 分譲条件及び価格　一括払1,200,000円分割払い7年据置4年分割払
頭金10%
- 環境　地形ーところどころ凸凹はあるが概して東南に向ってゆるやかな平坦地をなす。
土壌ー埴質壌土を含んだ砂質土でPH 7.5～8.0程度のアルカリ性土壌である。
植生ー耐旱性の強い灌木草木類が密生し，巨木はない。
気候ー夏は35～36°Cをこし，冬には氷点下になることもあるが，年平均気温約16°Cで一般に温暖である。年間雨量は250～300mm位で，農法として灌漑農業がとられている。
近傍都市ー陸路14kmの所にヘネラルアルベアール市（人口35,000 人）がある。
- 営農の概要
永年作物としてブドウ，桃，アルファファ(牧草)短期作物として，トマト，ピーマン，玉ネギを栽培する。メンドサ州灌漑局により規定配分を受けた用水で灌漑農業を行っている。
- その他
1968年12月に電化され，移住地発展に役立っている。
事業団アンデス事業所，任意組合アンデス農協がある。

メンドサ市で年に1度開かれるブドウ祭のパレード風景。
この日は約50万人の人出があり，野外劇場，ブドウの女王選出等 色々な催しがあります。
メンドサ州はアルゼンチンで最も有名なブドウ，桃，アンズ等の果樹生産地です。

アンデス移住地

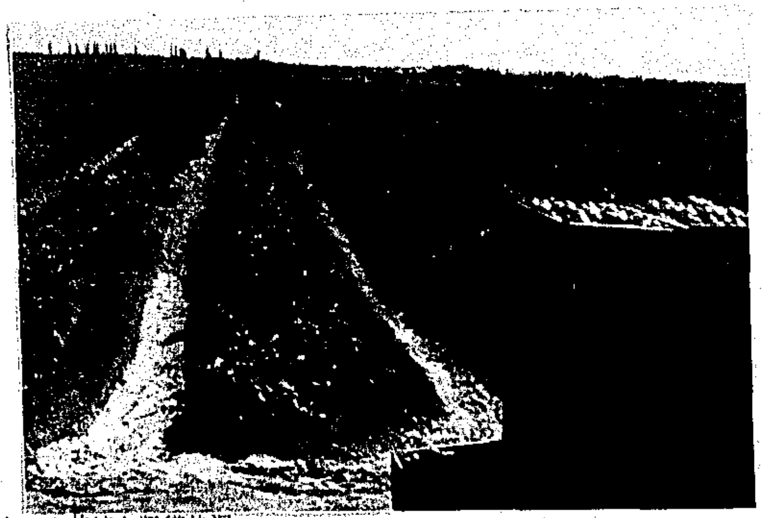
移住地内を走る幹線用水路

水は移住地より15㎞離れたアトエル川よりとり入れています。この他，事業団では移住地内に，深井戸3本（120^m，150^m，170^{m}の井戸）を掘り灌漑水が不足しないよう灌漑設備を整備しています。

ブドウは生食用品種と，醸造用品種とが栽培されますが主として醸造用品種です。

醸造用は，附近の工場に出荷されます。（移住地より40㎞以内に約70の工場がある）

トマト，タマネギ，ピーマン等は，このように畦畔を作り畦間に適宜灌水して栽培します。



トマト栽培と収穫状況

トマトは加工用（缶詰用，ケチャップ用）品種が栽培され附近の工場に出荷されます。定植および生育期間中畦間灌漑を続け1 ha当り17,000～18,000本植栽で15,000～25,000kg収穫されます。

ガルアペー移住地

■ 移住地の概況

- 位置　西経54度50分南緯26度50分
- 標高及び面積　平均275 m　3, 110ha（1ロッテ30ha ）
- 入植状況　　事業団直営移住地　51戸入植
- 分譲条件及び価格－括払521, 300円，分割払 8 年据置 4 年払，頭金10%。
- 環　境

地形及び土壌－お、むね起伏に富む緩傾斜波状地形をなし，土壌は玄武岩を母岩としたテーラロシヤと呼ばれる肥沃地である。

植生－高さ20～25 m 位もある高い木が割合密に生い茂った原生林である。

気　候－最高気温37° C（2月）最低－4℃（7月）年平均20°C，年間雨量1, 600～2, 200 mm

近傍都市－陸路180km ポサーダス市（人口120, 000人），陸路80km エルドラード市（人口30, 0000人）

- 営農の概要

マンジョカ，トウモロコシ，蔬菜，豚，鶏をとり入れて自給体制をとりながら，換金作物としてタバコや雑豆（ささげ,小豆類）を作り，永年作物，油桐，柑橘，マテ茶，紅茶，植林で営農の確立を計っている。

- その他

事業団ガルアペー事業所，公認組合ガルアペー農協がある。

ミシオネス州の大動脈である国道12号線が移住地内を縦断している。

当事業団のガルアペー事業所

職員が駐在し,移住地管理や入植者の援護に携わっています。また，は小学校，診療所，組合事務所，警察署等もあります。

パラナ松

アルゼンチンは木材消費の多い国で，多くを外国から輸入しています。ミシオネス州はアルゼンチンでの有力な木材生産地であり，パルプ生産地でもあります。移住地の近くの町ピライにもパルプ工場があります。移住地ではユーカリー1ha1,600本植栽，植付後6年目，12年目，20年目に伐採。パラナ松（アラウカリヤ）―1ha2,000本植栽，間伐13，16，20年に行なう。エリオッテス（アメリカ松）―1ha1,000本植栽（パルプ用材）等が栽植され，入植の早い農家では，すでに伐採の時期に入っています。

柑橘類は，移住地全体で150ha(37戸)が栽培されており，品種はスイート・オレンジが主で他にネーブルとか，マンダリーナが栽培され，普通植付後3年目頃から若干の収量があり，6～7年頃より本格的な収量が見込まれます。栽植距離は6～8m×6～8mです。その他永年作物として油桐，マテ茶，紅茶があります。

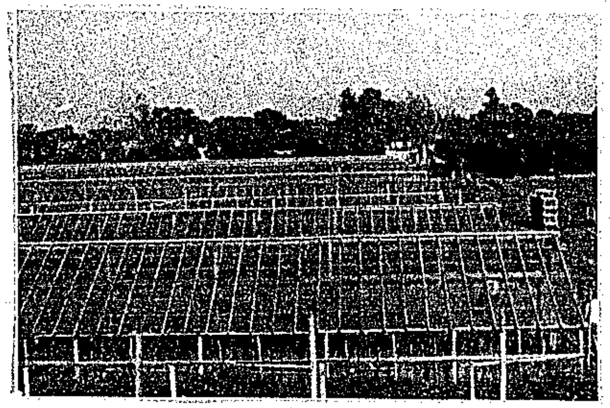
当地で最も有力な換金作物となっているのがタバコです。日本に比べ粗放栽培で品種にはミシオネイロ，ブラジイレイロ等があり，収量は1ha当り2,5～3トンといわれています。

花卉青年移住

■ 概　要

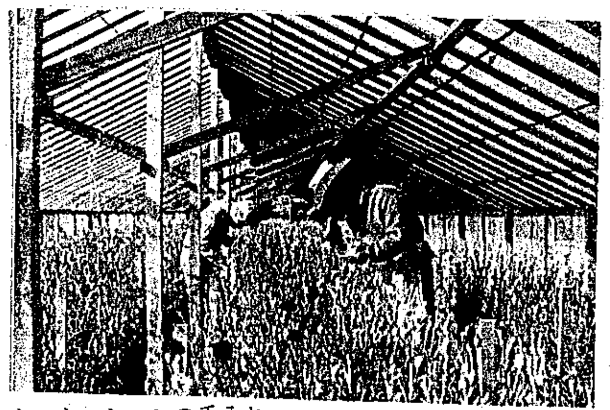
アルゼンチンの首都ブエノス・アイレス市（人口約380万人）近郊では，在留邦人の花卉栽培が盛んであるが戦後この地区への移住はアルゼンチン政府の厳いし移住制限があって，日本からの移住は困難であった。この地区の在留邦人は，花卉栽培の発展を図るため，日本から秀れた農業青年を受け入れ出来るようアルゼンチン政府に要請し，特に花卉蔬菜栽培を志す青年の導入許可を得た。昭和38年8月に第1陣が渡航して以来，100余名をかぞえすでに独立安定した営農を行なっている青年も多数いる。

ブエノス・アイレス市のたたずまい



花卉青年移住者の温床

花卉青年も独立し，自分の温床を持つようになった。温床（1棟の大きさ標準的には6×40m）を3棟持てば，経営および生活基盤が確立されます。



カーネーションの手入れ

温床栽培には，切花（カーネーション，菊，ストレシア）鉢物（シクラメン，ラン，アジサイ）観葉植物（ゴム虎の尾）等があります。

露地栽培には，グラジオラス，バラ，水仙等があります。

ボリビア国

〈概　　観〉

南米大陸の中部に位置し，アンデス山脈中の内陸国で，この国は太陽の国インカ帝国の一部であったが，1539年スペインの植民地となり，1852年独立して共和国となった。

その後，相次ぐ革命及びパラグアイとのチャコ戦争により，国力は衰えたが，1952年以来，農地改革，工業開発計画がすすめられつつある。

〈産　　業〉

国民の85%は農業に従事しているが，耕地面積は国土の2%以下で，大量の食糧を輸入している。

農産物は米，麦，とうもろこし等が主なので，近年アメリカの援助により，農業機械化が急速にすすめられている。鉱業は，錫，銅，鉛，石油等資源に恵まれているが，開発はおくれている。錫の生産は世界第2位である。

工業は，軽工業の一部を除いては，見るべきものは殆んどない。

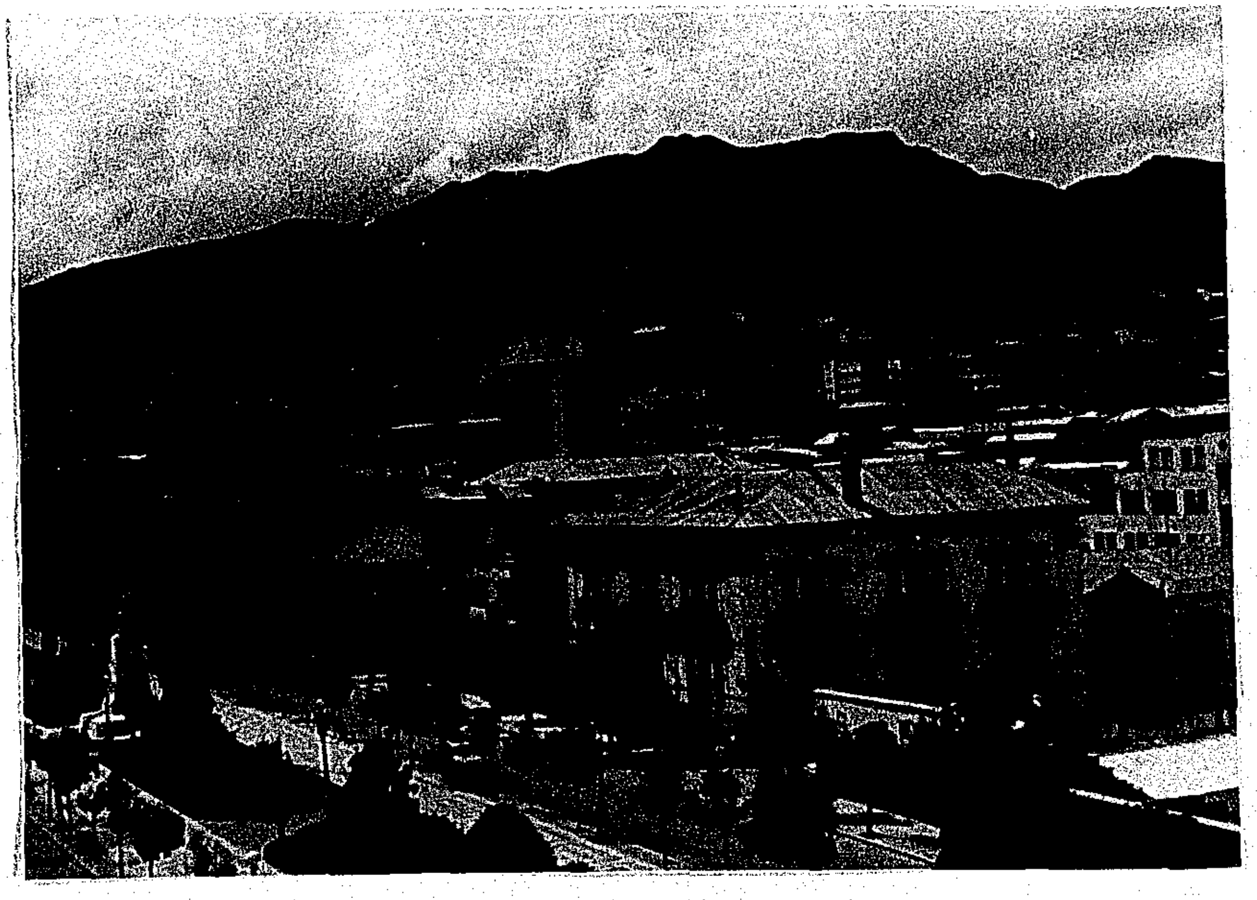
輸出品の主なものは錫，ゴム等で，輸入品は鉄鋼，機械，食料品等である。

〈日本との関係〉

この国への日本人の入国は，1916年（大正5年）に始まり戦前約1,000名が渡っている。

ボリビア政府は，日本人の能力を高く評価し，1956年（昭和31年）8月，日ボ移住協定が締結され，5年間に1,000家族の受入れが認められ，現在継続されている。戦後は1955年（昭和30年）7月よりサンファン地区に集団入植し，261戸 約1500人が営農に励んでいる。この移住地は，ボリビア政府から1戸当り50町歩を無償で譲りうけたものであって，入植後一時は困難な時期もあったが，道路，学校等の施設も整備され，米，とうもろこし，大豆等も生産が上り安定しつつある。現在更に家畜の導入，永年作物の栽培と機械化農業の方向へすすめられている。

このサンファン移住地のほかに，オキナワ移住地があり，現在448戸 約2800人が入植している。オキナワ移住地では，米，サトウキビ等の栽培のほか，牛の導入が盛んである。

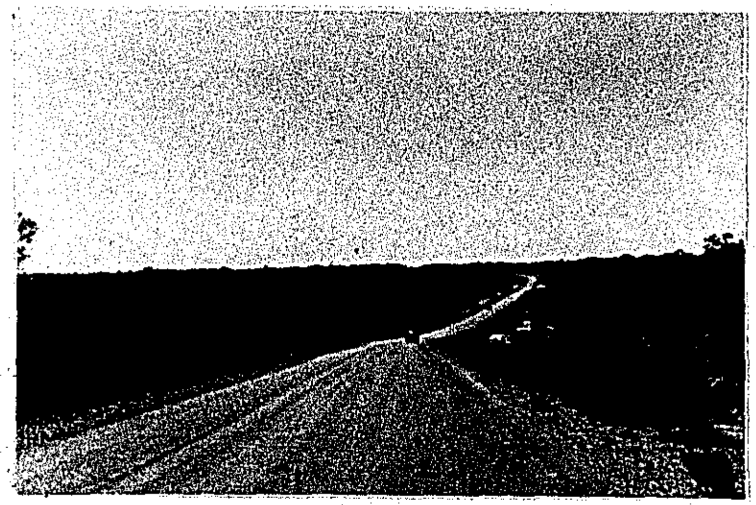


海抜3,600mにある首都ラ・パスの大通り

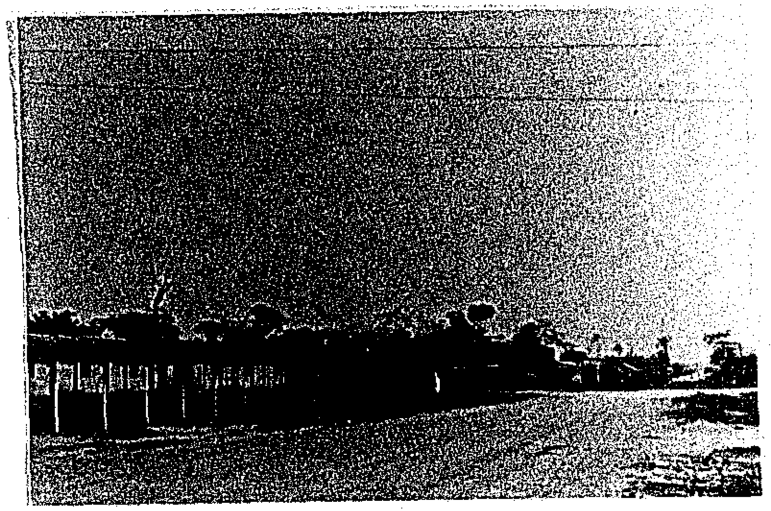
■移住地概況

項目＼移住地名		サンファン移住地	沖縄第一移住地	沖縄第二移住地	沖縄第三移住地
位置		西経63度50分、南緯17度20分	西経62度80分、南緯17度10分	西経62度10分、南緯17度50分	西経62度70分、南緯17度60分
標高		320m～358m、平均339m	310m～330m、平均320m	340m～360m、平均350m	340m～380m、平均360m
面積		35,288ha(1ロッテ50ha)	18,181ha(1ロッテ50ha)	16,744ha(1ロッテ50ha)	18,312ha(1ロッテ50ha)
入植状況		261戸　事業団管理の移住地	242戸　事業団管理の移住地	144戸　事業団管理の移住地	57戸　事業団管理の移住地
分譲条件及び価格		無償	無償	無償	無償
環境	地形	大部分は平坦で、小川が南東から北西に走っている。	概ね平坦、移住地境にパイロン川及び東10kmにグランデ川が貫流している。	概ね平坦、東にグランデ河が貫流している。	第二移住地に同じ。
	地質・土壌	沖積層台地で砂土、壌土が混交している。PH4.5～5.6	両川の沖積地、粘土質、砂質壌土に大別される。	粘土質地50%、砂質地25%、低湿地25%。	粘質土壌80%、砂質土壌20%、地味は割合肥沃。
	植生	熱帯樹木が繁茂し、沼沢地を除き林相は密である。	原始林はサンファンに比較してやや樹高が小型である。	第一移住地に同じ。	第一移住地に同じ。
	気候	年平均気温24.1度、年間雨量1,977mm。	年平均気温23.4度、年間雨量1,272mm。	第一移住地にほぼ同じ。	第一移住地にほぼ同じ。
	近傍都市	サンタクルス市(11万人)140km、モンテーロ市(2万人)86km。	サンタクルス市96km、モンテーロ市42km。	サンタクルス市65km。	サンタクルス市55km。
営農の概要		陸稲を主体として機械化農業を進めており、家畜も積極的に導入して複合経営に向っている。	サンファン移住地に同じ。	サンファン移住地に同じ。	サンファン移住地に同じ。
その他		アスファルト道路がサンタクルス市から移住地入口まで通じている。事業団事業所、農場、診療所及びサンファン農協がある。	アスファルト道路が第一移住地内を通り、サンタクルス市に通じている。オキナワ第一移住地に事業団事業所があり、3移住地の指導相談に応じている。診療所は、夫々の移住地にある。コロニヤオキナワ連合会と各移住地に単協がある。		

サンファン及びオキナワ移住地



サンタ・クルス市よりサンファンおよびオキナワ移住地に通じるアスファルト道路



サンファン移住地市街地

学校，診療所，農協，警察，事業団事業所，商店等が集まり移住地の中心地となっています。オキナワ移住地にも市街地が建設され，新しい村造りが進められています。

サンファン診療所

サンファン及びオキナワ第1～第3移住地に診療所があり，日本人医師が常駐，移住地の衛生管理に当っています。

運動会風景

移住地では学校の運動会のみならず，年に何度か各種のレクリェションが催されています。

サンファン及びオキナワ移住地

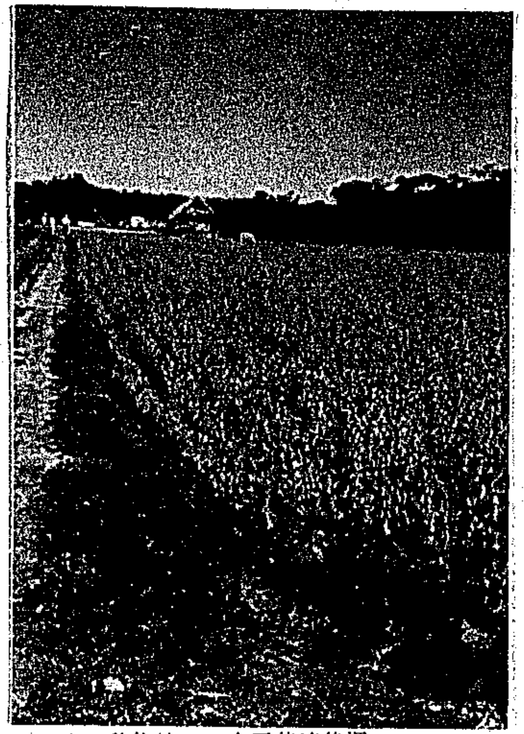
サンファン農業協同組合

収穫間近い稲と入植者の家を遠望する。各移住地共米作主体の営農が進められています。日系人農家の生産米は，ボリビアの生産量の２～３割を占めています。サンファン移住地生産量約3,000トン，オキナワ 移住地約6,000トン

焼畑農業から脱脚し，機械化営農によって，永久耕地化と営農の合理化を図り，もって生産基盤を確立することを目的としてサンファン及びオキナワ移住地ではブルドーザ，トラクター等による機械化営農が進められています。

サンファン及びオキナワ移住地

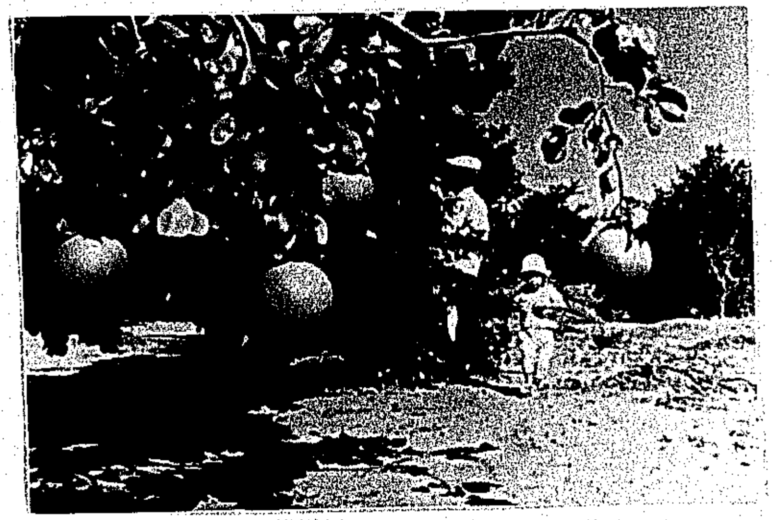
米の他に有力な短期作物としてトウモロコシがあり，年に２回栽培されています。平均収量は１ha夏作2,300㎏，冬作1,150㎏ 品種はクバノアミマィリョ等であります。



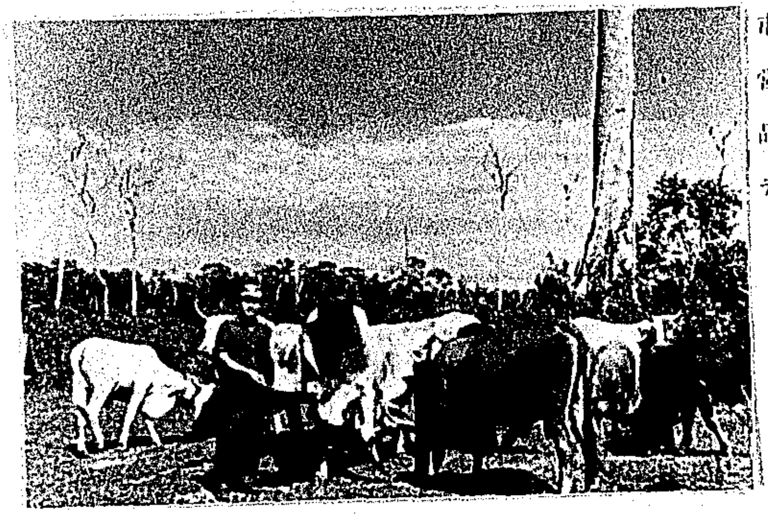
オキナワ移住地での大豆栽培状況

搾油原料及び飼料用として栽培され，1ha当り平均収量は夏作1,700㎏冬作1,150㎏程度です。

米の裏作に，一部小麦が自給用に栽培されています。その他自給用作物としてマンジョカ，蔬菜類が作られています。



自給用家庭果樹として柑橘類 マンゴ，バナナ等が栽培され，またコーヒーやお茶も作られてます。



市場的に需要および価格が安定している牧畜を積極的にとり入れ，米作と組み合せた経営により営農を確立する方法が進められています。
品種的には、ゼブーの血を受けた在来牛が主で将来の方向としては、サンタ・ゲルトルディス種の導入が図られています。

ポーランド・チャイナ種の血を受けた在来豚が主として飼われており，デュロック・ジャージとかランドレースが普及しています。

非常に養鶏が盛んで，鶏卵は組合を通じてサンタクルス市に出荷されています。